

応用できる測定法として Duncombe 法(1963)の検討を試みた。

2. 血清のクロロフォルム抽出液に、岩山の銅試薬を加えてよく振盪し、脂肪酸銅を生成せしめ、遠心沈澱すると、下層のクロロフォルム層に脂肪酸銅が移行するから、下層をとり、これにジエチルジチオカルバミン酸塩を加えて呈色せしめる。

3. 原法では、銅試薬と呈色試薬は調製後1週間以内に使用するよう指示しているが、私の検討では銅試薬は2カ月間安定である。原法は呈色試薬を butan-2-ol に溶かしているが、私は n-ブタノールを用い、少なくとも3カ月間安定であることを認めた。

A—33 血清遊離脂肪酸測定法の検討

実践女家政 石沢 久

1. 血清遊離脂肪酸 (Non Esterified Fatty Acids… Nefa)は遊離脂肪酸がアルブミンと結合したものである。血清脂肪酸の90~95%が中性脂肪、リン脂質、コレステロールエステルなどに含まれており、この中では中性脂肪の脂肪酸の turn over が最も早く、重要な輸送型と考えられていたが Nefa の脂肪酸の turn over は異常に早く、従って Nefa は、量は少いが脂肪酸代謝における意義はきわめて大きく、この型で中性脂肪の2倍の量の脂肪酸が運ばれるものとみられる。最近動脈硬化症や糖尿病と血清 Nefa の関連が注目をあびているが、その測定は複雑で困難とされていた。私は日常の検査に